

先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)

第 11 回 総 会

議 案 書

2020 年 10 月 9 日(金)
オンライン開催

目 次

第1号議案 第10期(2019年度)活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第2号議案 第10期(2019年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 第11期(2020年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	3-1
・ 第11期(2020年度)の活動計画.....	3-2
第4号議案 第11期(2020年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	4-1
第5号議案 第11期(2020年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	5-1
付属資料	
・ 第11期(2020年度)活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

- 第1期(2010年度):2010年9月8日～2011年8月31日
- 第2期(2011年度):2011年9月1日～2012年8月31日
- 第3期(2012年度):2012年9月1日～2013年8月31日
- 第4期(2013年度):2013年9月1日～2014年8月31日
- 第5期(2014年度):2014年9月1日～2015年8月31日
- 第6期(2015年度):2015年9月1日～2016年8月31日
- 第7期(2016年度):2016年9月1日～2017年8月31日
- 第8期(2017年度):2017年9月1日～2018年8月31日
- 第9期(2018年度):2018年9月1日～2019年8月31日
- ⇒ 第10期(2019年度):2019年9月1日～2020年8月31日
- ⇒ 第11期(2020年度):2020年9月1日～2021年8月31日

第 1 号議案

第 10 期(2019 年度)活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第10期の活動総括

予期せぬ新型コロナウイルス感染症拡大により、2月下旬に予定していた催事を突然に延期・中止せざるを得ない状況に見舞われた。以後、集合スタイル（Face to Face）でないと効果が見込めず、かつ、三密（密閉、密集、密接）の回避が困難な活動（例えば、IoT や AI など演習中心の勉強会）は止むを得ず延期、中止とした。一方、セミナーや部会活動はオンラインに切り換え、工夫をしながら活動を継続させてきたが、このような状況下では当初の計画に即した活動の展開は難しく、重点施策実現のための十分な活動ができなかったことは否めない。しかしながら、オンライン開催には集合スタイルとは違う利点があることも体験、体感し、知見を得た。今後も、適宜、集合スタイルとオンライン開催を上手く組み合わせるのが好ましいのではないかとということも学んだ。収束が見えない現在、With コロナ時代のニューノーマルに適用し、実りある活動を実施・継続するために、この経験を活かしていきたい。

【第10期の重点施策】

- ① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化
- ② 情報と知見の発信を更に強化し、先端 IT の普及促進で社会貢献
- ③ 先端 IT 人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化
- ④ 会期末（2021年8月末日）に向け、AITC 活動の集大成となる活動を計画 & 実行開始

【第10期の主な取り組み】

・部会活動：

- AITC の中核である部会では「IoT」、「AI」、「量子コンピューティング」、「AR+VR+MR」等の技術分野に加え、「ロジカルシンキングと集合知」に関する研究活動等を集合スタイルからオンライン開催に代えて、積極的に取り組んだ。
- クラウド・テクノロジー活用部会では「量子アニーリング」書籍の輪読や OpenCV を使った画像検出器作成などの活動に加えリモートワークが急速に進む中、多種の Web 会議システムの特性や使い勝手などを検証する活動を実施し、Web セミナーで体験発表を実施した。
- 「ロジカルシンキングとコンテキスト・コンピューティング」の研究に取り組むコンテキスト・コンピューティング研究部会では、毎月、部会顧問に参加いただき、具体例を用いた「社会知」の構築と活用という観点での議論を進めた。
- ビジネス AR 研究部会では、遠隔でのコミュニケーションについて実践的な活動を行い、With コロナ時代に向けた新しいイベントやコミュニケーションの形についてツールやプラットフォームの活用のヒントを Web セミナーでデモを交えて紹介した。
- UX 技術部会では、マンガ駆動開発に関する論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」の査読結果を踏まえ、記載内容の見直しとブラッシュアップに取り組んだ。
- IoT、AI、AR+VR+MR、ロジカルシンキングを協働プロジェクトの中に発展的に取り込む、あるいは量子コンピューティングに関する部会活動の資料を会員限定勉強会に活用するなど部会と他活動との間でスキルとノウハウの伝播とフィードバックが行われた。

・協働プロジェクト活動：

- 協働プロジェクト「空気を読む家」では AI & IoT による『安心安全な空気を読む家』の実現をテーマに、家の中の危険や遠隔地の家族の見守りに注目して各部会で議論や実験を行い、その成果を2月の「IT フォーラム」で発表した。
- 発表当日には、遠隔地の親の家と自分の家をつなぐ窓をテーマとして、空間 OS を中心にして各部会の知見・技術を持ち寄ったリアルタイムでインタラクティブのあるデモを実際に来場者が体験できるように、「Touch & Try コーナー」を設け、好評であった。

・会員限定の勉強会活動：

- 今期は「身近になった AI 開発シリーズ～グループ別勉強会」を5回、「プログラマーのための量子コンピュータ」の最終回を開催した。
- 様々なツールが誕生し、AI 開発がぐっと身近になった状況を受け昨年1月に開始した「身近になった AI 開発シリーズ」では、今期9月よりグループ別勉強会として4グループが「Neural Network Console」を使った開発に取り組み、1月の発表会では興味深い取り組みが披露された。
- 量子コンピューティングについては、クラウド・テクノロジー活用部会メンバーによる「プログラマーのための量子コンピュータ勉強会」の最終回が開催され、体系的で、かつ、判り易いと大好評であった。

・オープンな活動分野：

- 毎回好評の「AITC セミナー & オープンラボ」は三密の観点から開催を控え、しばらく様子を見ることとなったが、長引く状況から5月にオンライン開催の企画を開始し、6月～8月に計5回の Web セミナーを実施した。
- リモートワークの対応が急速に進む現状にあわせ、6月は「ソフトウェアエンジニアの在宅勤務」と題して、リモートワークに関する講演やリモート & グループの開発経験談、更に部会メンバーからは「Web 会議システム使い比べ」の報告や「新しい遠隔コミュニケーションツールやプラットフォームについての活用のヒント」が紹介された。
- 7月には三週連続で「Web 会議システム連続講座」が開催され、Webex、Teams、Zoom の主要な Web 会議システムを技術的な側面も含めて各社からご説明いただいた。
- 今期最後の8月には、「ロジカルシンキング」をベースに「その報告書で勝てますか？」のタイトルで IT 技術者のための攻めの報告・提案テクニクをコンテキスト・コンピューティング研究部会顧問よりご教授いただいた。
- 5回の Web セミナー開催を通して、時に音声聞き取り難い等の不都合があるものの、集合スタイルとは違うオンライン開催による運営側メリット（会場確保不要＝日程調整のし易さ、録画機能による迅速な動画配信等）、参加者側のメリット（参加のし易さ、資料の見易さ、質疑応答のし易さ等）など双方にとってのメリットを把握できた。
- 発足6期目を迎えた「シニア技術者勉強会」では大好評の「一からはじめる IoT 勉強会」が大好評のうちに4周目を終了し、1月の発表会では素晴らしい試作が発表された。4月開始を予定していた5周目は特に演習で三密の回避が難しいことから延期を余儀なくされた。
- 「AITC 女子会」はこの7月より「Neural Network Console で機械学習に挑戦！」を輪講スタイルで開始し、オンラインでは難しいとされる演習の実施に挑戦している。

第10期活動実績

■会員数

2020年08月31日現在：総会員数 63 会員（法人 & 個人事業主会員：26、個人会員：31、学会会員：2、特別会員：4※）

2020年10月09日現在:総会員数63会員(法人&個人事業主会員:26、個人会員:31、学会会員:2、特別会員:4※)
(参考)

2019年08月31日現在:総会員数78会員(法人&個人事業主会員:33、個人会員:37、学会会員:4、特別会員:4※)

2019年10月07日現在:総会員数72会員(法人&個人事業主会員:28、個人会員:38、学会会員:2、特別会員:4※)

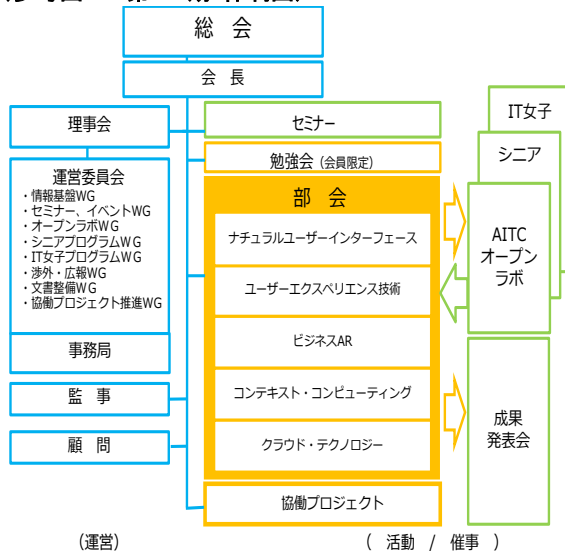
※特別会員:産業技術総合研究所、気象庁、消防研究センター、防災科学技術研究所

■運営関連の活動実績

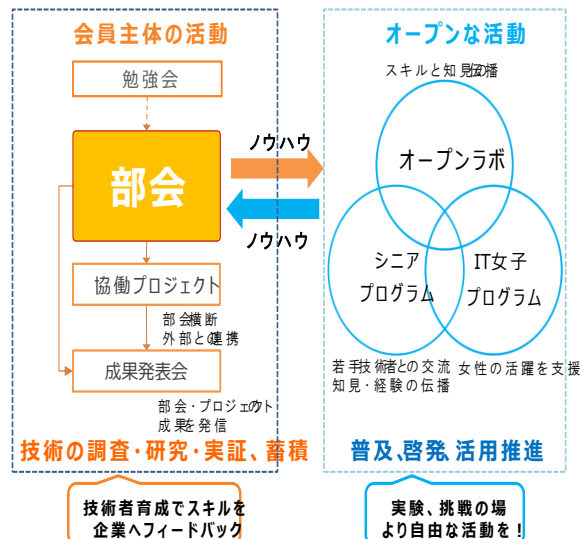
1. 年次総会&総会記念講演:2019年10月7日開催(出席者:会員54名、非会員5名)
2. 理事会:開催2回、ML審議6回
3. 運営委員会:開催14回(集合6回、SNS代替3回、オンライン5回)、SNS審議12回
活動内容:(1)入退会管理
(2)収支管理
(3)セミナー・イベント企画・運営:総会、成果発表会、AITCオープンラボ(6月~Webセミナーに移行)
(4)会員向け活動支援(部会、協働プロジェクト、会員限定勉強会)
オープンな活動(オープンラボ、シニアプログラム、IT女子プログラム)
(5)情報基盤:ドメイン&サーバー管理
(6)渉外・広報:AITCパンフレット更新、AITCニュースレター発行
(7)外部組織・団体との連携/協力:
活動企画・運営:気象庁、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)
情報処理学会
活動発表の場として:ITフォーラム
(8)会員アンケートの実施、サマリー公開:第10期会員アンケート

■会員主体の活動(部会、協働プロジェクト、勉強会)活動実績

(参考図1:第10期体制図)



(参考図2:活動の種類と関係)



1.第9期(2018年度)活動成果発表会

2019年10月7日 第10回総会第1部として実施
参加者:52名(会員47名、非会員5名)

2.部会

(1)クラウド・テクノロジー活用部会(2011年5月発足)

- 1)開催実績:月例会 11回、参加者47名
- 2)活動内容:
 - ・気象庁APIサーバの運用を継続(2020年8月末で更新停止)
 - ・書籍『最適化問題とWildqatを用いた量子アニーリング計算入門』の輪読
 - ・OpenCVを使った画像検出器を作ってみる:電車の側面行先表示器の識別
 - ・Blueqat Summit 2019(MDR株式会社)の参加報告
 - ・Web会議システム使い比べ:Webex, Teams, Zoom
 - ・勉強会『今更聞けない電子認証入門』(講師:宮地)
- 3)外部イベントで発表
 - ・ITフォーラム2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)
- 4)活動成果、および公開資料&掲載URL
 - ・ITフォーラム2020 室内を画像処理で把握 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc4
 - ・Web会議システムの使い比べ(会員限定) <http://movies.aitc.jp/20200608/>

(2)コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月発足)

- 1)開催実績:月例会 10回、参加者53名

2)活動内容:

新たに林浩一教授を部会顧問にお迎えし、具体例を用いた「社会知」の構築と活用という観点での議論を進めてきた

- ・ロジカルシンキングとコンテキスト・コンピューティング
 - ーロジカルシンキングの歴史と活用の分野
 - ー論理の種類と構造の理解
 - ー説得とアブダクション(結論に機能を当てはめて仮説を推論)
 - ー集合知を使って社会をよりよくする時のロジカルシンキングの活用
 - ーロジカルシンキングを活用した社会知の構築
- ・研究動向
 - ートウルミンモデルを形式論理にあてはめるようなアプローチの研究
- ・協働プロジェクト「空気を読む家」
 - ー「転倒」に関する考察として、転倒を検知した後のふるまいに関する議論
 - ー状態遷移図や Assurance Case の形式を借りて図式化
 - ー前提/可能性を絞って検証可能なモデルを作成
 - ー社会知の実現に向けて
 - ー「空間 OS」上のアプリケーションとして実現するには
- ・その他
 - ー責任論
 - ー知識の粒度とマイクロサービス
 - ーテンポラルロジック/時相論理 - 時間との関連で問題を理解し表現するための規則と表記法の体系
 - ーシンギュラリティ

3)外部イベント発表

- ・ITフォーラム 2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)

4)活動成果、および公開資料&掲載 URL

- ・ソフトウェアジャパン ITフォーラム 2020「ITフォーラムセッション」資料
「コンテキスト・コンピューティングで紐解く『空気を読む家』」 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc7

(3)ビジネス AR 研究部会(2011年7月発足)

1)開催実績:月例会11回、参加者延べ40名

2)活動内容:

- ・空間 OS の開発、LookingGlass を活用したデモ実装
協働プロジェクトに協力
上記の一環で、情報処理学会ソフトウェアジャパン 2020 ITフォーラムセッション(2020年2月7日)でデモおよび講演
- ・VR 遠隔 MTG の検討及び実践
Remo を使った部会開催
Vive SynC お試し会開催
ウェブセミナー懇親会での Special.caht 活用
- ・AR 関連事例の共有
AITC SNS で 34 件の事例を引用した上、SNS や月例会で意見交換

3)外部イベントで発表

- ・ITフォーラム 2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)

4)活動成果、および公開資料&掲載 URL

- ・『安心安全な空気を読む家』LookingGlass で空間の AR https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc3
- ・『安心安全な空気を読む家』を縁の下で支える空間 OS https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc6

(4)ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011年12月発足)

1)開催実績:4回(Web会議)参加者:13名(ナチュラルユーザーインターフェース活用部会と共同開催)

2)活動内容:

- ・マンガ駆動開発に関する論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」の査読結果から、記載内容の見直しの実施
- ・協働プロジェクト「空気を読む家」

3)活動成果

- ・ITフォーラム 2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)

4)公開資料&掲載 URL

- ・マンガ駆動開発で課題分析『安心安全な空気を読む家』 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc2

(5)ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2011年12月発足)

1)開催実績:4回(Web会議)参加者:13名(ユーザーエクスペリエンス技術部会と共同開催)

2)活動内容:

- ・協働プロジェクト『空気を読む家』におけるナチュラルユーザーインターフェース技術の活用を議論
- ・第6回 デジタルガジェット祭り開催に向けた企画検討 → コロナ影響で中止

3)活動成果

- ・ITフォーラム 2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)

4)公開資料&掲載 URL

- ・『安心安全な空気を読む家』におけるスマート照明 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc5

(6)協働プロジェクト「空気を読む家」(協働プロジェクト第2弾として2014年12月検討開始)

1)開催実績:1回(合同部会) 参加者:7名

2)活動内容:

- ・2019年8月22日の合同部会で議論・決定した「安心安全な空気を読む家」の実現手段について、12月13日の冬の合同部会で検討。離れて生活する母親の安心安全を提供する空気を読む家の実現のため
 - ・プライバシーに配慮した人の見守りとして人の動作をスケルトンモデルとして抽象化
 - ・転倒を検知するアルゴリズム
 - ・LookingGlassを使った次世代の見守りインターフェース。室内の物体と人の検知と遠隔表示
 - ・危険なモノ(高温な物体など)の検知
 - ・異常時に外にアラームへのアラーム
 - ・分散して存在する全てのデバイスを連携する空間OSを実現し、ITフォーラムにて実演を行い、好評を得た。

3)活動成果

- ・ITフォーラム2020「ITフォーラムセッション」(2020年2月7日)

4)公開資料&掲載URL

- ・AITCと協働プロジェクト『空気を読む家』の紹介 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc1
- ・マンガ駆動開発で課題分析『安心安全な空気を読む家』 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc2
- ・『安心安全な空気を読む家』LookingGlassで空間のAR https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc3
- ・『安心安全な空気を読む家』室内を画像処理で把握 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc4
- ・『安心安全な空気を読む家』におけるスマート照明 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc5
- ・『安心安全な空気を読む家』を縁の下で支える空間OS https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc6
- ・コンテキストコンピューティングで紐解く『空気を読む家の安全と安心』 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc7

3.勉強会(会員限定)

(1)身近になったAI開発～ツール勉強会(2019年4月～2020年1月)

1)開催実績:第10期として5回(第3木曜日19時～21時開催) 参加者:66名(初回からの参加者165名)

2)活動内容:

- ・9月:勉強会(AITC会員限定) ミニアイデアソン&グループ結成(Neural Network Console(NNC)を使う4グループ)
 - ① ホースライド:馬の気持ち予測にチャレンジ
 - ② aiCATs:身近なデータ(気象データ×交通データ等)を使った予測
 - ③ なんちゃって文豪:講義のおさらいと、講義内容を応用した予測モデルを作成
 - ④ 帰ってきた馬天気:気象データを使った競馬予想
- ・10月:グループ別勉強会(AITC会員限定)
- ・11月:グループ別勉強会(AITC会員限定)
- ・12月:グループ別勉強会(AITC会員限定)
- ・2020年1月25日:「一から始めるIoT & 身近になったAI開発シリーズ～勉強会合同発表会～」

3)活動成果

- ・グループ勉強会の活動成果と経験を文書化し発表&公開

(2)プログラマーのための量子コンピュータ勉強会(2019年7月～2019年9月予定)

1)開催実績:第10期として1回(第3木曜日18時30分～21時開催) 参加者17名(初回からの参加者62名)

2)活動内容:

- ・9月:勉強会(AITC会員限定)「量子アニーリング型のプログラミング」

3)活動成果

- ・先進性の高い技術領域への取り組み(量子コンピューティング シリーズの総参加者234名)
- ・新規会員(個人会員)の入会に貢献

■オープン活動(オープンラボ&Webセミナー、シニア技術者勉強会、女子会)活動実績

1. AITCオープンラボ & Webセミナー: 開催6回、参加者271名(会員191名、非会員80名)

【AITCオープンラボ】

- ・2020/01/25 「第9期「一から始めるIoT」&「身近になったAI開発シリーズ」～勉強会合同発表会～」
参加者28名(会員23名、非会員5名)

【Webセミナー】

- ・2020/06/08 「ソフトウェアエンジニアの在宅勤務」 参加者45名(会員35名、非会員10名)
- ・2020/07/13 「Web会議システム連続講座～Cisco WebEx編～」 参加者33名(会員23名、非会員10名)
- ・2020/07/20 「Web会議システム連続講座～Microsoft Teams編～」 参加者33名(会員21名、非会員12名)
- ・2020/07/27 「Web会議システム連続講座～Zoom編～」 参加者28名(会員21名、非会員7名)
- ・2020/08/24 (RITS共催)「その報告書で勝てますか?～反転論証図で学ぶ、IT技術者のための攻めの報告・提案テクニック～」
参加者104名(会員68名、非会員36名)

2. シニア技術者プログラム(シニア技術者勉強会、2015年3月発足)

活動実績:月次開催(2019年9月～2019年12月)4回+成果発表会(2020年1月)1回
参加者:52名(会員33名、非会員19名)

活動内容:「一からはじめる IoT 勉強会_第4周(第9期2月~第10期1月)」のアイデアソン&試作開発 & 「交流会」
活動成果:2020年1月25日 オープン活動発表会「機械学習に触れてみよう! &一からはじめる IoT 成果発表会」
・試作テーマ:ランドリー、あとちょっと(調味料の残量管理)、新鮮組(賞味期限管理)、無くしもの探し、自分専用アメダス

3. IT 女子プログラム (通称:AITC 女子会、2015年5月発足)

活動実績:月次開催 3回(2020年6月に開始)、参加者:22名(会員:19名、非会員:3名)

活動内容:「Neural Network Console で機械学習に挑戦!」 輪講(9月まで)、実装(10月~2021年2月)、発表(2021年3月)

■公開資料

【第十回総会】

2019/10/07(月) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第10回総会

・第10回総会議案書 http://aitc.jp/consortium/data/statement_20191007.pdf

【会員アンケート(会員限定公開)】

・AITC 第9期(2018年度)会員アンケート(会員限定) http://aitc.jp/consortium/data/questionnaire_2018.pdf

【動画:第9期(2018年度)活動成果発表会&第10回総会】

https://www.youtube.com/watch?v=NICfZ_JsXPY

・コンテキスト・コンピューティング研究会

個人の意思決定に有用な情報(内容)の信頼性に関する考察

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/11_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_CC.pdf

・ビジネス AR 研究会

遠隔ミーティング、プレゼンの研究成果発表

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/12_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_BizAR.pdf

『ビジネス AR』の現在とこれから

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/13_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_BizAR.pdf

エンタメからビジネスへ ~「ワクワク」から「コソコソ」へ

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/14_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_BizAR.pdf

・協働プロジェクト『空気を読む家』

6th シナリオ 人を見守る安心安全な空気を読む家

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/21_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_UX.pdf

要素技術検証

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/22_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_CLOUD.pdf

技術検証状況報告(2)

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/23_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_NUI.pdf

空間 OS@空気を読む家

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/24_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_%E7%A9%BA%E9%96%93OS.pdf

転倒検知に関する議論

http://aitc.jp/events/20191007-Seika/25_%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E4%BC%9A_%E5%8D%94%E5%83%8D%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_CC.pdf

【IT フォーラム(2020/02/07 情報処理学会主催)】

・AI & IoT による『安心安全な空気を読む家』の実現 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc1

・マンガ駆動開発による「安心安全な空気を読む家」 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc2

・『人を見守る安心安全な空気を読む家』 LookingGlass で空間の AR https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc3

・『人を見守る安心安全な空気を読む家』 室内を画像処理で把握 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc4

・『安心安全な空気を読む家』における スマート照明(Smart Light) https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc5

・『安心安全な空気を読む家』を縁の下で支える空間 OS https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc6

・将来展望: コンテキストコンピューティングで紐解く『空気を読む家の安全と安心』 https://www.slideshare.net/aitc_jp/it2020-aitc7

【身近になった AI 開発シリーズ(会員限定)】

・「グループ別勉強会」試作

ホースライド:馬の気持ち予測にチャレンジ https://www.slideshare.net/aitc_jp/2020125-aitc-at-1

aiCATs: 対馬蔵原の気象データによる あじ価格予測 https://www.slideshare.net/aitc_jp/2020125-aitc-at-2-aicats

なんちゃって文豪:なんちゃって文豪が詠む 万葉和歌 https://www.slideshare.net/aitc_jp/2020125-aitc-at-3

帰ってきた馬天気:気象データを使った競馬予想 https://www.slideshare.net/aitc_jp/2020125-aitc-at-4

【プログラマーのための量子コンピューティング勉強会(会員限定)】

Part 1: 関連数学と1量子ビット計算

http://quantum.aitc.jp/20190725_1st/ (会員限定)

Part 2: 量子ゲート型のプログラミング

http://quantum.aitc.jp/20190826_2nd/ (会員限定)

Part 3: 量子アニーリング型のプログラミング

http://quantum.aitc.jp/20190926_3rd/ (会員限定)

【Web セミナー(オープン)】 (動画&資料は会員限定公開)

- ・2020/06/08 第一回 Web セミナー「ソフトウェアエンジニアの在宅勤務」 <http://movies.aitc.jp/20200608/>
- ・2020/07/13 第二回 Web セミナー「Web 会議システム連続講座～WebEx 編～」 <http://movies.aitc.jp/20200713/>
- ・2020/07/20 第三回 Web セミナー「Web 会議システム連続講座～Teams 編～」 <http://movies.aitc.jp/20200720/>
- ・2020/07/27 第四回 Web セミナー「Web 会議システム連続講座～Zoom 編～」 <http://movies.aitc.jp/20200727/>

【AITC シニア技術者勉強会(オープン)】

- ・「一からはじめる IoT 勉強会」試作
チーム・ランドリー: 服の日焼けを防止するアイデア
<https://www.slideshare.net/aitc.jp/2020125-aitc1>
- あとちょっと: 使おうと思ったら、なかったを防ぐ
<https://www.slideshare.net/aitc.jp/2020125-aitc2>
- 新鮮組: わすれま鮮
<https://www.slideshare.net/aitc.jp/2020125-aitc3-230785081>
- Lost+Found: 外出時の鍵のかけ忘れ
<https://www.slideshare.net/aitc.jp/2020125-aitc4-lostfound>
- 自分専用アメダス: 音による降水強度測定の試み
<https://www.slideshare.net/aitc.jp/2020125-aitc5>

第 2 号議案

第 10 期(2019 年度)収支報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 10 期(2019 年度)収支計算書

2019 年 9 月 1 日 から 2020 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 10 期 予算	第 10 期 実績	差額	備考: 予算策定時の総定数⇒実績数
1. 収入の部				
前年度繰越	7,229,092	7,229,092	0	
年会費	3,186,000	2,906,000	280,000	法人&個人事業主(10万円) 28 会員 ⇒ 26 会員 個人会員(1万円) 38 会員 ⇒ 30 会員 学会会員(3千円) 2 会員 ⇒ 2 会員
懇親会等参加費	390,000	125,000	265,000	懇親会参加費: (4,000円) 0名 ⇒ 1名 (2,000円) 0名 ⇒ 37名 (1,500円) 200名 ⇒ 6名 (1,000円) 90名 ⇒ 38名
雑収入	80	75	5	利息
収入の部合計	10,805,172	10,260,167	545,005	
2. 支出の部				備考: 用途別費用
総会開催費	250,000	198,713	51,287	第 9 回総会の懇親会費用: 166,500 円 総会表彰状&額縁代: 32,213 円
活動支援金 (部会、勉強会)	500,000	242,622	257,378	レンタル・サーバー&商用 Web サービス: 51,096 円 Web 会議システム年間契約料: 39,360 円 パンフレット印刷費等: 47,258 円 懇親会費(講師分補填等): 38,568 円 他団体参加活動支援(交通費補助): 66,340 円
協働プロジェクト支援金	400,000	160,648	239,352	デモ機器購入費: 87,940 円 Backlog 年間使用料: 31,680 円 仮想専用サーバー費: 11,278 円 合同部会忘年会(補填金) 29,750 円
イベント参加費	100,000	91,929	8,071	「IT フォーラム 2020」スポンサー費: 55,000 円 気象ビジネスフォーラム出展費: 20,000 円 ポスター作製費: 16,929 円
技術セミナー、オープンラボ開催費	300,000	0	300,000	
シニア技術者勉強会&女子会 活動支援金(特別支援金)	100,000	0	100,000	
事務局経費	2,640,000	2,640,000	0	情報配信&サイト管理費: 1,320,000 円 上記以外の全事務局作業費: 1,320,000 円
通信費	10,000	4,380	5,620	宅配便: 4,380 円
事務消耗品費	20,000	8,983	11,017	プリンター用備品費 8,451 円、事務用品費 532 円
雑費	20,000	6,980	13,020	名刺作成費 3,650 円、振込手数料: 3,330 円
予備費	6,465,172	0	6,465,172	
支出の部合計	10,805,172	3,354,255	7,450,917	
次期繰越収支差額		6,905,912	-6,905,912	
合計	10,805,172	10,260,167	545,005	

今期の支出減少の理由について:

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、2月下旬以降は部会の活動形態を集合スタイル(Face to Face)からオンライン開催に切り換えた。これに伴い、外部団体への参加中止、部会活動や協働プロジェクトのデモ開発用機器機材購入が止まり、支出が半減した。
- ・同様にセミナー&AITC オープンラボや演習中心の勉強会が全てに伴い、会場費や懇親会費用の補填などの支出も止まった。
- ・但し、この間も情報発信や運営側の活動は継続され、事務局経費は所定通り支出された。

貸借対照表

2020年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,905,912		
流動資産合計		6,905,912	
資産合計			6,905,912
【負債の部】			
前受金	0		
流動負債合計		0	
負債合計			0
【正味財産の部】			
正味財産			6,905,912
(うち当期正味財産増加額)			-323,180
負債及び正味財産合計			6,905,912

財産目録

2020年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,905,912		
普通預金	6,905,912		
横浜銀行	6,905,912		
流動資産合計		6,905,912	
資産合計			6,905,912
【負債の部】			
流動負債			
前受金	0		
流動負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			6,905,912
負債及び正味財産合計			6,905,912

監査報告書

2020年9月12日

先端IT活用推進コンソーシアム
会長 鶴保 征城 殿

監事

水谷 学 

私 監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第31条に基づき、本会の会期と定めた2019年9月1日から2020年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第 3 号議案

第 11 期（2020 年度）活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

本会の活動・運営方針

1) 活動理念

本会は、先端情報技術（以下、先端 IT と表す）にトライできる場、ワクワクできる場を提供し、先端 IT に明るい技術者の育成と先端 IT の活用を推進することで、IT 業界および IT が支える産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す。

2) 活動の目的

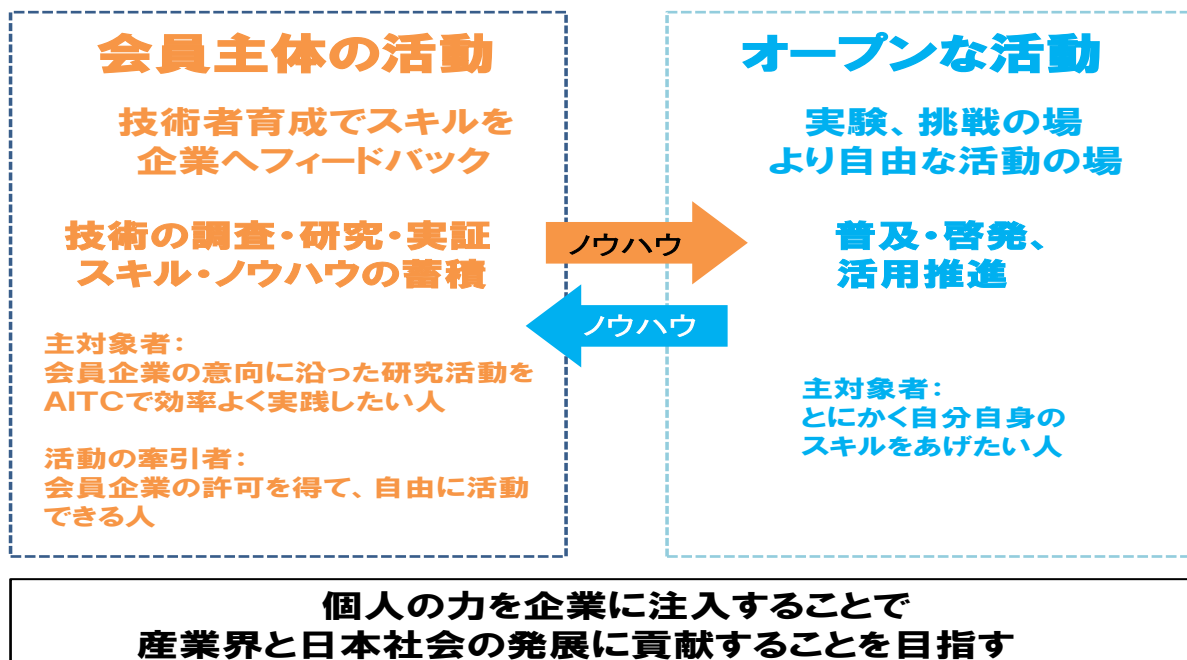
本会は、技術者の自発的な活動を支援し、個々の技術者が先端 IT を身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすため、次のような活動の「場」を提供することを活動の目的とする。

- ・先端 IT に関する情報をいち早く技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって、先端 IT に関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・失敗しても何度でもトライでき、先端 IT にワクワクできる場
- ・先端 IT の可能性を検証し、活用を推進する場
- ・得られた先端 IT の知見を発信していく場
- ・先端 IT に関する企業間交流の場

3) 活動方針

- ・一社ではできない活動、競合関係を越えた活動
- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・知見の発信・活用推進による社会貢献

4) 活動の体制



5) 活動の成果

- ① 部会や協働プロジェクトの成果として、以下を想定する。
下記は、理事会承認をもって認定成果物として公開される。
 - ・試用・検討報告書
 - ・実証実験報告書
 - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
 - ・プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など
- ② 下記は活動の成果として、都度、速やかに公開する。
 - ・成果発表会の発表資料
 - ・AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ、AITC 女子会、シニア技術者勉強会の講演/発表資料

6) 会員制度

会員種別	対象者	議決権	活動参加 注1	運営参加 注2	年会費 注4
正会員	法人 個人事業主	○ ○	○ ○	○ ○	10万円 10万円
準会員	個人会員 学会会員	X X	(要理事会承認) ○ ○	X X	1万円 3千円
特別会員	選任	X	(要理事会承認) ○	○ 注3	無料

- 注1：活動参加とは、下記全てに参加できることを指す
 会員主体の活動（部会、協働プロジェクト、AITC技術セミナー、会員限定の勉強会）
 & オープンな活動（オープンラボ、AITC女子会、AITCシニア技術者勉強会）
 注2：運営参加とは、理事、運営委員として本会の運営に携わること指す
 注3：特別会員は理事会の要請を受け、運営に参加することができる
 注4：新規入会が後半期（3月～8月）の場合、半額をもって年会費とする

特記事項:2020年9月1日現在の会員(会員種別を問わず)について、第11期年会費の無料化を決定

2. 第11期(2020年度)の活動計画

1) 第11期の重点施策

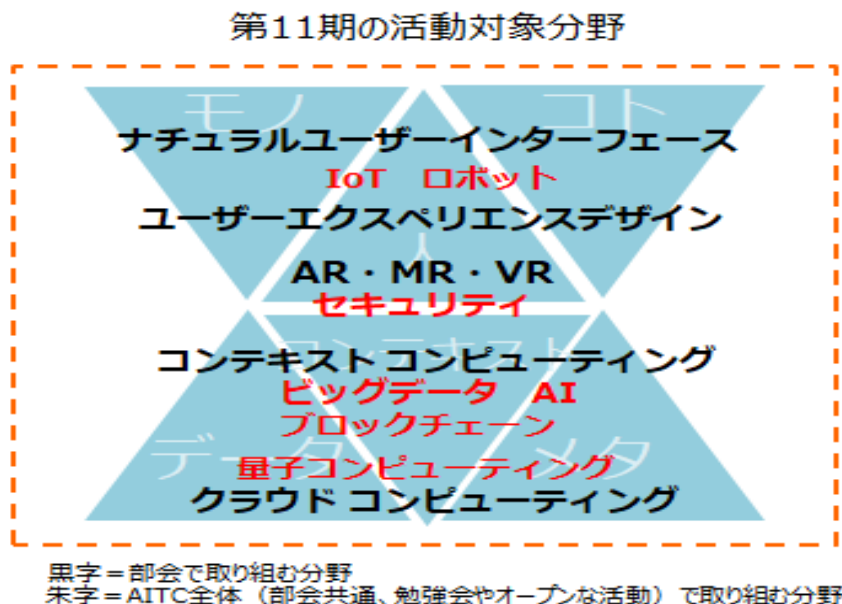
2010年9月に設立した本会活動は11期目に入り、今期末(2021年8月末日)をもって会期終了を迎えることとなる。折しも新型コロナを契機に大きな技術変革の時期にある今、この変化と向き合い、対応していくことが重要と考える。Withコロナ時代のニューノーマルを支える先端IT活用の発信に努める。デジタルトランスフォーメーション(DX)※に関する情報発信に加えて議論を始めることで、ICT(先端ITを含む)の利活用による企業の社会的価値の創出へ貢献することを目指す。また、11年間の活動で得られた経験や知識を体系的に整理・総括する成果物に加え、各活動を横断的に統合し、AITCの集大成とすることに取り組む。更に、社会貢献の一環として、非会員も参加可能なオープン活動を充実させ、参加者の裾野を広げることで、先端ITに明るい技術者育成・拡大に注力する。

※経済産業省のデジタルトランスフォーメーション定義:企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

- ① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを継続
 本会では、IoT、AI、量子コンピューティング、ブロックチェーンなど注目度の高い技術にいち早く取り組み、会の内外から高く評価されてきた。会期終了時まで、この取り組みを堅持し、企業がこれからの技術として特に注目する新しい技術に積極的に取り組み、新しい技術領域を学び、調査・研究・検証するための活動に注力し、会員企業はもとより広く会の内外に向けてスキルとノウハウの伝播を行うことを目指す。
 - ・企画者と知見を持つ人の連携を密に行い、知見を有する外部講師によるセミナーを開催、知見者との交流を図る
 - ・「勉強会」活動を継続し、参加者が共に学び、助け合いながら疑問を解くことで、その分野のスキル・ノウハウを有する技術者、とりわけ後続の技術者達に技術を広めていけるリーダー的技術者の育成に励む
 - ・協働プロジェクトに新しい技術を適用、検証するなど試験的な取り組みを行い、得られたスキルと知見を会員内外に発信する
 - ・Withコロナ時代のニューノーマルを支える先端IT活用、デジタルトランスフォーメーション(DX)に関する情報発信や議論等に取り組む、ICT(先端ITを含む)の利活用による企業の社会的価値の創出へ貢献することを目指す。
- ② 会期末(2021年8月末日)に向け、AITC活動の集大成に取り組む
 - ・設立以来11年間の活動の総括を目指し、各部会の活動については成果発表会やセミナーの発表資料、学会への投稿論文、活用提案や提言書、ノウハウ集など参照性の高い資料としてまとめ、AITC活動の総括として公開する
 - ・協働プロジェクト「空気を読む家」でのシナリオ作りやデモ開発を通して得た知見を総括する文書化を行い、成果として公開する
- ③ 先端ITに関する情報と知見の発信、活動の更なるオープン化で社会貢献に注力
 - ・社会貢献に注力
 設立以来、先端ITへの取り組みと調査・研究の成果を広く世に公開することにより、先端ITの普及を促進し、社会に寄与することを目指してきた。今期は会員限定勉強会をオープン化し、技術者の裾野を拡大し、更なる社会貢献を目指す。
 - ・活動の成果をタイムリーに発信
 部会に蓄積されたスキル・ノウハウや研究成果を、「Webセミナー/オープンラボ」や「成果発表会」で纏めて発信することで、技術者の裾野の拡大を図り、先端IT活用推進に貢献する

- ・Web セミナーやオープンラボ、成果発表会等の資料を、広く一般公開し、鮮度良くリアルタイム性の高い情報を外部発信することで、先端 IT の活用推進に寄与する。資料の公開には、引き続き、外部サービスも併用し、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする
- ④ 活動終了後に向けた環境整備に注力
- ・会期終了後、これまで AITC から発信、公開された資料を検索し易く、利用し易い形に Web サイトを再整備し、現行の情報基盤を以後 7 年間は保持する仕組みを整える
 - ・これまで培った人的交流が維持できるよう、SNS はじめ現在のネットワーク環境を保持する

2)活動対象分野



本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。部会活動を中心に、ユーザーインターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い技術分野をカバーするとともに、注目度の高い新しい技術領域（IoT、セキュリティ、機械学習/深層学習/強化学習、量子コンピューティングなど）に取り組んでいる。会員はいずれの活動にも好きなだけ参加できるため、活動への関与の仕方次第で、幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会を得て、同時に多様な人との交流も可能になる。

【新しい技術領域への取り組みについて】

第 5 期（2014 年度）は IoT、第 6 期（2015 年度）は機械学習にフォーカスした活動で注目を集め、第 7 期から第 8 期においては、引き続き IoT や機械学習・深層学習・強化学習に取り組むとともに、ブロックチェーンやロボットに取り組み、第 9 期は量子コンピューティング シリーズを開催するなど、先進的な取り組みが大いに注目、評価された。

今期（第 11 期）も、これから新たに登場するテクノロジーに注目し、会期末まで挑戦していく。

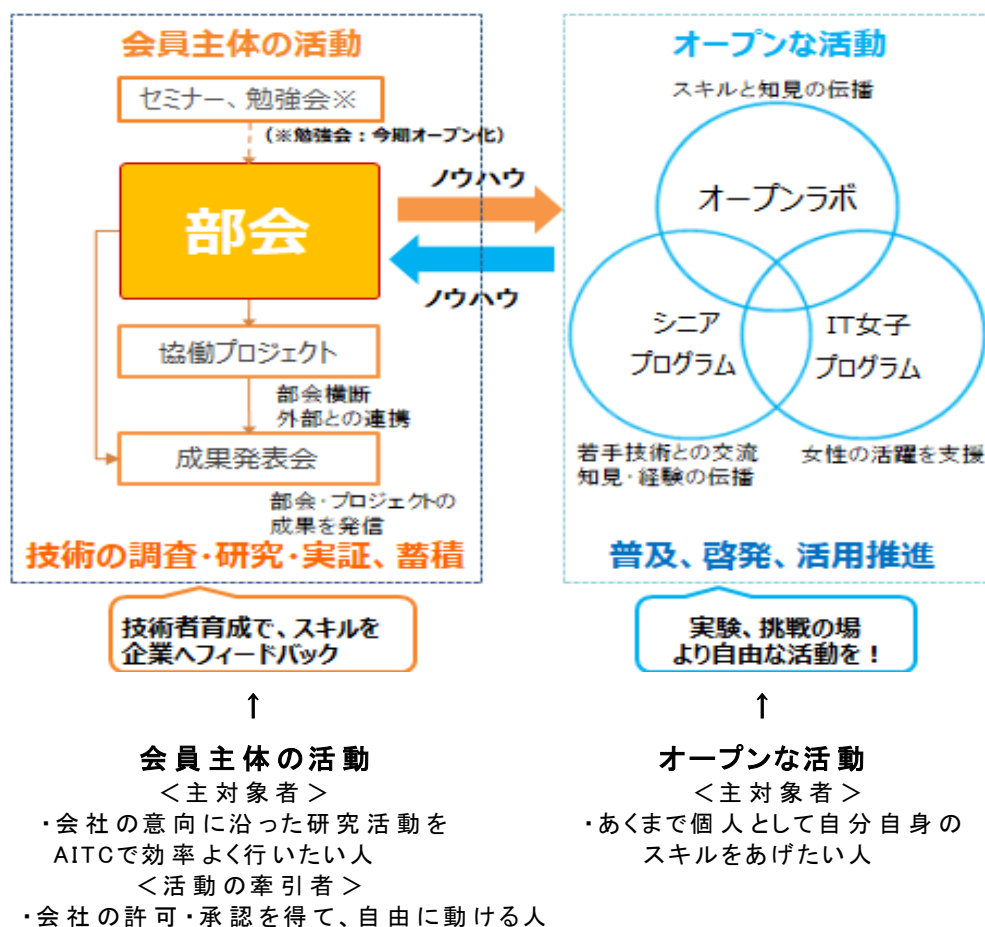
なお、上記以外の新しい技術領域に関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 各種アンケート（会員アンケート、AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ等）
- ② AITC 会員専用「わいがや会議室」での要望入手やヒアリング
- ③ 運営委員会によるセミナー企画、開催
- ④ 新しい活動の立ち上げ：会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる
 会員規約第 40 条（勉強会）
 3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
 会員規約 第 41 条（部会）
 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3)活動の種類と関係性

会員主体の活動とオープンな活動の 2 系列で構成し、それぞれの特質を活かしながら活動し、適宜、相互に連携することでより密度の濃い活動になることが期待される。今期における会員主体の活動とオープンな活動それぞれの構成は以下の通りとする。

但し、今期は AITC 最後の一年となるため、従来、会員限定で実施して「勉強会」をオープン化することで先端 IT のスキルを有する技術者を育成する場を広く提供し、社会貢献活動の強化を目指す。



【活動の概要】

会員主体の活動：

先端 IT に明るい技術者を育成し、スキル・ノウハウを会員企業へフィードバックする活動を行う場

① セミナー(部会のシーズ)

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

- ・勉強会や部会のシーズとなる先端 IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。

会員は希望するセミナーに、いつでも、いくつでも参加することができる。

② 勉強会(第 11 期: 社会貢献の一環としてオープン化)

特定の先端 IT を学び、試しに使う場

- ・部会のシーズとなる先端 IT
- ・企業が注目している新しい技術領域

勉強会は、特定の先端 IT を短期集中(3 ヶ月～6 ヶ月程度)で学習する場。

先端 IT の動向を見ながら、また、会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく。

勉強会は目標達成をもって活動を終了するか、部会の活動にするか、勉強会後の活動形態を選べる。

会員は希望する勉強会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ 部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間、目標、活動の成果、具体的な活動内容や方法を定める。

定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。

会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

④ 協働プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。

実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。

先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。

会員は協働プロジェクトに参加することができる。

⑤ 成果発表会等

実活動に基づく情報と知見を共有する場

- ・部会や協働プロジェクトの活動内容や成果を会員内外に発表する

上記の発表会に加えて、他団体との共催あるいは他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT の活用推進を目指す。

オープンな活動:

非会員も参加可能な先端 IT の普及・啓発、活用推進の場、部会活動で得たノウハウを伝播する場より自由に、新しい技術領域に挑戦、実践する場

① AITC オープンラボ

部会とノウハウを相互に伝播する場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・会員内外を問わず技術情報・ノウハウを発信し、先端 IT の普及・啓発に寄与
- ・技術者の裾野を広げ、活用推進への足掛かりとしての知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側はオープンラボの挑戦、実践の結果のノウハウを受けすることで、活動の進化・深化に役立てることができる。

イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。

② シニアプログラム(シニア技術者勉強会)

シニア技術者と若手技術者が交流する場

- ・シニア技術者に先端 IT を学ぶ場を提供する
- ・シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承する

③ IT 女子プログラム(通称: AITC 女子会)

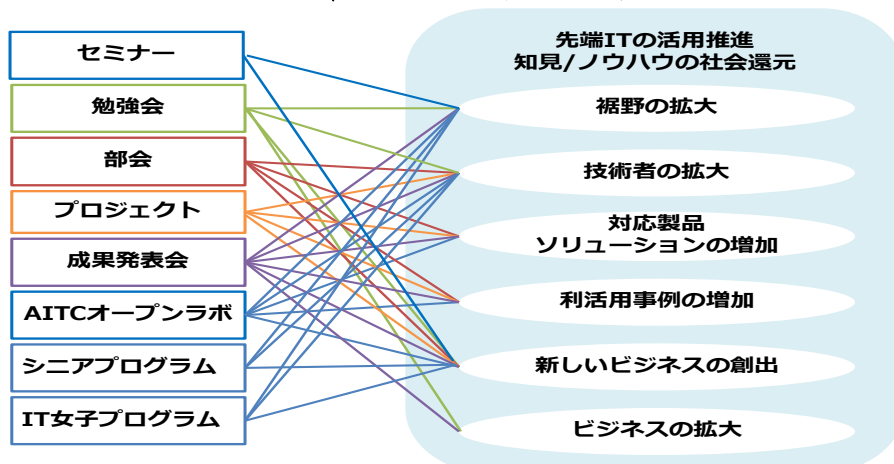
「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する場

- ・女性技術者に先端 IT を学ぶ場を提供し、活躍の場が広がることを支援する
- ・オープンな場での活動を通じて AITC を知ってもらい、AITC の活動への女性の参加と活躍を促進する

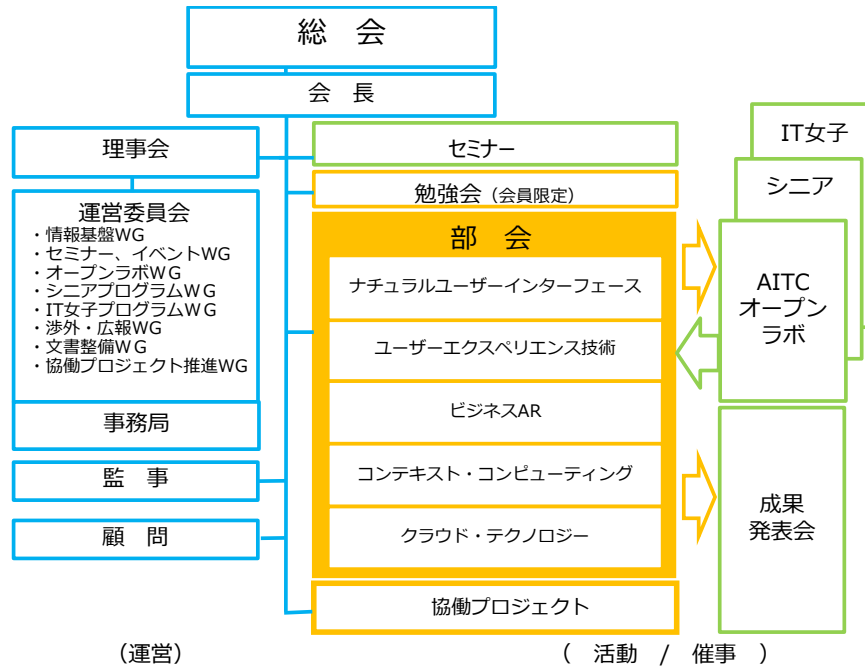
4) 活動の期待効果

先端 IT の活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果を想定する。

活動/催事の期待効果



5)体制図



6)年間主要活動計画

(年次) 2020年10月9日
2021年10月(予定)

理事会、第11回総会、総会記念講演、懇親会(オンライン開催)
理事会、最終総会、総会記念講演、懇親会(外部会場予定)

(月次)

運営委員会 & 部会リーダー会
部会
勉強会(今期は非会員も参加可能なオープン活動として開催)
シニア技術者勉強会
AITC女子会

(随時)

合同部会
SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動
成果発表会
AITCWebセミナー(従来の技術セミナー&オープンラボ)
Webサイト更新作業
AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会
取材協力
外部主催の催事に対する出展、協力

注記:新型コロナの状況と活動内容を考慮し、オンライン開催と集合スタイルを適宜選択し実施する。

第 4 号議案

第 11 期（2020 年度）予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 11 期(2020 年度) 予算計画

2020 年 9 月 1 日 から 2021 年 10 月 31 日 まで (単位:円)

	第 10 期 予算	第 10 期 実績	第 11 期 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	7,229,092	7,229,092	6,905,912	
年会費	3,186,000	2,906,000	0	今期末での会期終了を想定し、前期末時点の全会員の年会費を無料化による
セミナー等参加費	390,000	125,000	0	オンライン開催で実施のため
雑収入	80	75	70	受取利息等
収入の部合計	10,805,172	10,260,167	6,905,982	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	250,000	198,713	1,500,000	最終総会会場費(外部会場を予定)&懇親会費、講師謝金、賞状作成費、配送費等
活動支援費 (部会、勉強会)	500,000	242,622	500,000	機器機材購入/レンタル費、レンタル・サーバー費 外部会議室費、外部団体参加費、輪読用書籍代、 講師謝礼、懇親会費
協働プロジェクト支援金	400,000	160,648	400,000	機器機材購入/レンタル費、合同部会懇親会費 等 外部会議室費
イベント参加費	100,000	91,929	100,000	外部イベントへの参加費等
技術セミナー、オープンラボ開催費	300,000	0	300,000	講師謝金、懇親会費 等
シニア勉強会 & 女子会活動支援金	100,000	0	100,000	機器購入費、外部会議室費、講師謝金、交流会費 等
事務局経費	2,640,000	2,640,000	2,640,000	事務局サポート要員費(各種の情報配信&サイト掲載、 会員管理&対応、セミナー等申込受け付け&運営補助、 財務経理、事務作業一般、対外対応等)
通信費	10,000	4,380	10,000	郵送料、宅配便費
事務消耗品費	20,000	8,983	20,000	
雑費	20,000	6,980	20,000	振り込み手数料、名刺作成費
会期終了準備費	0	0	920,000	外部サーバー保持費(40万円) Web サイト整備費 (30万円) 事務局残務整理費 (22万円)
予備費	6,465,172	0	395,982	
支出の部合計	10,805,172	3,354,255	6,905,982	
次期繰越収支差額		6,905,912		
合計	10,805,172	10,260,167	6,905,982	

前提条件:2021 年 8 月末日をもって本会活動を終了する。よって、予算計画対象期間を残務整理完了予定の 2021 年 10 月末日と設定する。

特記事項 1:支出の部の予算額は第 9 期(2018 年度)の実績(=第 10 期予算)を参考に計上。予算不足が生じた科目は理事会承認を得て予備費を充当する。

2:会期終了に向けた準備のための予算を計上。

・外部サーバー維持費 40 万円(7 年間を想定) ・サイト整備費 30 万円 ・事務局経費 22 万円(最終成果発表会&総会準備、
監査資料等の作成、残務整理)

3:新型コロナ感染状況によりオンライン中心の活動になる場合には、支出が半減することが想定される。

適宜、見直しを行い適正な予算執行に配慮するとともに、残余資産の扱いを検討し最終総会に議事として諮る。

第 5 号議案

第 11 期（2020 年度）理事／監事選任の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 11 期(2020 年度) 先端 IT 活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名 50 音順)

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーサービス本部	近藤 繁延
株式会社 NTT データ	技術開発本部 本部長	両宮 俊一
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部 本部長	齋藤 重幸
学校法人・専門学校 HAL 東京	校長	鶴保 征城
株式会社日立製作所	サービス&プラットフォームビジネスユニット	
	ソフトウェアCoE ソフトウェア生産技術部 部長	中島 恵
株式会社 PFU	テクノロジーズセンター ソフトウェアテクノロジー統括部	
	ソフトウェア共通技術部 部長	松山 憲和
富士ゼロックス株式会社	エンタープライズドキュメントソリューション事業本部	
	ソリューション開発部 部長	倉繁 宏輔
富士通株式会社	ソフトウェアプロダクト事業本部	
	サポート技術統括部 プリンシパル・エキスパート	林 正和
リコーITソリューションズ株式会社	理事 技術経営本部 本部長	木原 民

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社 取締役相談役 水谷 学

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名 50 音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 萩野 達也
 経済産業省 報政局 情報経済課 アーキテクチャ戦略企画室長 和泉 憲明
 東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授 橋田 浩一
 名古屋大学 名誉教授 山本 修一郎
 一般社団法人 MaruLabo 代表理事 丸山 不二夫

【コンテキスト・コンピューティング研究部会顧問】

(留任) 武蔵野大学 Musashino University Smart Intelligence Center 教授 林 浩一

【ビジネス AR 研究部会顧問】

(留任) デジタルハリウッド大学大学院 専任教授 三淵 啓自

【運営委員候補】(敬称略、社名 50 音順)

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーサービス本部	近藤 繁延
株式会社 NTT データ	技術開発本部 ヘルスケア AI センタ 課長	高木 徹
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	Tech マーケ&デザイン企画部 クロス Tech 企画部	牧野 友紀
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部 サービス技術二部 部長	井上 英樹
株式会社 PFU	テクノロジーズセンター ソフトウェアテクノロジーズ統括部 ソフトウェア共通技術部 部長	松山 憲和
富士ゼロックス株式会社	SOL 基盤開発統括グループ マネジャー・チーフアーキテクト	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	ソフトウェア&エレクトロニクス開発本部 コントローラ開発部 コントローラサービス開発統括グループ	門馬 隆
富士通株式会社	プラットフォーム技術統括部 インキュベーションセンター	小森 齊
リコーIT ソリューションズ株式会社	技術経営本部 技術人材開発部	飯沢 篤志
リコーIT ソリューションズ株式会社	ビジネスソリューションズ事業部 イノベーションデベロップメントセンター 第 4 イノベーション開発部 第 1 グループ	入江 弘憲

付属資料

第 11 期 (2020 年度) 活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト「空気を読む家」

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

10年目は、量子アニーリングやAIについて学習を行い、その中でクラウドサービスを積極的に使用した。
11年目の最後の年は、気象庁APIの運用で蓄積された7年半分のアクセスログとデータの、可視化やデータ活用について検討する。

また、これまで通り、クラウド全般、IoT、量子コンピューティング、AIについても取り組んでいく。

- ・測定(センシングなど): Arduino, RaspberryPI を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク): 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名, セキュリティ
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用): RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理、オープンデータの利用、アルゴリズム): R, AI, 量子コンピュータ
- ・出力(ビジュアライゼーション、外部操作): R, D3.js, ロボット, ROS

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。

■活動計画

- ・クラウド関連の情報収集
- ・部会内勉強会&勉強会参加報告&ハンズオンの開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会&ハンズオン資料
- ・オープンラボまたは Web セミナーへの展開
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例オンラインミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換

■体制(敬称略)

リーダー: 荒本 道隆(アドソル日進株式会社)

サブリーダー: 上村 準也(キヤノン IT ソリューションズ株式会社)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■活動計画

これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、理論と実践、応用の三つの面からの研究を平行して進めてきた。

今期は、前期までに成果としてまとめた情報の信頼や論理をもとに構築した社会知のモデルの活用に関してその実現性を議論し検証していく。

また、単なる自動化とは異なる「人と機械が協働する世界」を描き、そのメカニズムに関して議論する。

理論)意思決定理論や情報の信憑性など、関連研究に関する輪読・輪講

実践)構造化コンテンツを活用するための技術・実装の調査・試用

応用)「空気を読む家」におけるコンテキスト・コンピューティングの活用シナリオの検討と検証

■活動成果

- ・人と機械の協働による社会知形成実現に向けた社会知の基本モデルの提案書
- ・空間 OS を活用した情報基盤としての社会知の設計案とその価値検証結果
- ・講演等各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNS を使ったオンラインでのディスカッション
- ・顧問、有識者との意見交換

■体制(敬称略)

リーダー: 道村 唯夫(富士ゼロックス株式会社)

リーダー補佐: 牧野 友紀(日本ユニシス株式会社)

サブリーダー: 小林 茂(個人会員)

顧問: 和泉 憲明(経済産業省)

林 浩一(武蔵野大学)

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

この数年来、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末・VR やセンサーネットワーク(IoT)、生活支援ロボット(AI)、3次元デジタル空間・構造物モデル(BIM、3DCAD)への期待の高まりが生じている。

このような潮流をテクノロジーの観点で俯瞰すると、人間のあらゆる感覚の拡張やITと人間が一体となった技術(総連携=我々が考えるAR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域である"Others"(シェアリングエコノミー、ローカル経済、里山資本主義(広域自給自足)、プロボノ等)が勃興しつつあり、人々の働き方や生き方が「一つの組織に縛られる」ものから変化・多様化していく中、世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえたARの活用(ビジネスAR)について、研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

- 1)ビジネスARを創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

- 1)空間OSの開発継続(協働プロジェクトへの協力を含む)
- 2)「AJ(Automated Judgement)とAH(Augmented Human)」の研究継続
- 3)VRを用いた遠隔MTGの実験及び実践
- 4)2021-2021 1年のAR関連情報のアップデート
- 5)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など
- 6)オープンラボ、勉強会の実施

■活動成果

- 1)技術トライアル成果物の公開

■体制(敬称略)

リーダー:井出将弘(TIS株式会社)

サブリーダー:中川雅三(日本総合システム株式会社)

サブリーダー:西野貴志(個人会員)

顧問:三淵啓自(デジタルハリウッド大学院教授)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

ITシステムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から利用者にとってどんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。

また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。しかし、優れたUXを提供するITの実現には、先進的なUI技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。

このような状況の中、UXデザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体のUXだけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供するITシステムとは何かを探究する。

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していく。

■活動内容

AITC発のUXアーキテクトプロセスである「マンガ駆動開発」を啓発と普及を目指し、集大成である書籍「マンガ駆動開発ではじめるUXデザイン(仮)」の執筆を進める。

また、協働プロジェクト『空気を読む家』を「マンガ駆動開発」実践の場と捉え、マンガ駆動開発の更なる洗練を行う。

■活動計画

・マンガ駆動開発に関する論文「マンガ駆動開発によるUXデザインの実践」の見直しを行い最終成果とする

・協働プロジェクト『空気を読む家』を対象にしたマンガ駆動開発の実践と洗練

■活動成果

- ・論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』をの UX デザイン

■活動方法

- ・論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」の執筆を活動の中心とするため 月 1 回の Web 会議を開催。
- ・適宜、SNS 上での情報交換

■体制（敬称略）

リーダー：松山 憲和（株式会社 PFU）

サブリーダー：神野 昌和（富士通株式会社）

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景／活動目的

前年度に引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

協働プロジェクト「空気を読む家」のなかで、日常的な人間の振る舞いが自然なインターフェースとしてシステムと繋がるようなフレームワークを検討、開発する。

■活動計画

デバイス、ガジェット紹介イベント(デジタルガジェット祭り)の開催

協働プロジェクト「空気を読む家」での実践

■活動成果

- ・協働プロジェクト「空気を読む家」での実現
- ・活動の集大成として、これまで研究、評価してきた NUI デバイスの総まとめ

■活動方法

- ・Web 会議を中心とした部会ミーティング開催 (UX 技術部会と合同)
- (Face2Face ミーティングについては3ヶ月に1回程度、または合同部会のタイミングと合わせて実施)
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

・リーダー 岡村 和英(テクリエ)

協働プロジェクト「空気を読む家」

■目的

協働プロジェクトは、技術的なテーマを持って活動を展開している部会と連携し、以下を目的として活動を行っている。

- 1) 一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2) 会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3) 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■テーマ

超少子高齢化社会における安心・安全・快適な生活の実現という社会課題解決にチャレンジする「空気を読む家」をテーマとして協働プロジェクトの活動を行う。

「空気を読む家」は以下をコンセプトとする。

- ・「空気を読む家」は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

■活動内容

各部会の活動成果を結集し、「空気を読む家」を実現する。

・各部会の活動成果

- ユーザーエクスペリエンス技術部会が提唱する「マンガ駆動開発」によるユーザー体験のデザイン
- ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み
- クラウド・テクノロジー活用部会が取り組んでいる、IoT や深層学習などの先端 IT をもっと身近に体感
- ナチュラルユーザーインターフェース活用部会が研究している、真に自然なユーザーインターフェースの追求

- コンテキスト・コンピューティング研究部会で研究を進めている集合知、社会知の活用協働プロジェクト全体の方向性や部会ごとの役割分担や部会間の連携については合同部会と部会リーダー会において決定する。
- 各部会は、決定された方向性、役割に従って「空気を読む家」の具体化を進める。
- 「空気を読む家」1軒を部屋毎に建てていくイメージ(実際の「家」ではなくプロトタイプ)
- 家の各部屋(玄関、リビング、キッチン、寝室、浴室・・・)について、「マンガ駆動開発」により、課題抽出からユーザー体験をデザイン。
- ユーザー体験を実現する実証実験システムを、IoT、深層学習、自然なユーザーインターフェースを活用して構築
- 「空気を読む家」の大黒柱ともいえる「空間 OS」の拡充

■活動計画

2016年度に『空気を読む』というコンセプトを明確にし、2017年度はそのコンセプトを「忘れ物を見つけてくれるリビング」、「外出時に忘れ物を教えてくれるリビング」というを実証実験によって具現化した。また、2018年度は『空気を読む家のキッチン』をテーマにした実証実験を通してコンセプトの有効性を検証した。部屋個々の実証実験を終え、2019年度は『空気を読む家』全体として『人を見守る安心安全な空気を読む家』をテーマとして取り組んだ。2020年度は、最後の総まとめとして、これまで積み上げてきた取り組みを1軒の家として総括する。実証実験システムは 2021年2月の完成を目指し、結果をイベントや学会などで広く外部に問う。

■活動方法

以下の取り組みで活動を行う

- ・部会リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- ・各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- ・部会間の意見交換会
- ・発表
- ・構築後のプロトタイプ公開等
- ・プレスリリース

■活動成果

協働プロジェクトの実施によって見込まれる活動成果

- ・実証実験システム: システム、各種仕様書、ソースコード、モジュールなど
- ・活動報告書

■体制(敬称略)

リーダー : 松山 憲和(株式会社 PFU)

推進役 : 部会リーダー、サブリーダー、運営委員有志

メンバー : 会員有志(状況に応じ、他団体との連携により非会員が参加)